



共同研究の背景と概要

東京大学大学院教育学研究科附属
発達保育実践政策学センター

本研究の問題意識

- 子どもの発達における絵本や本の重要性が語られてきており、発達心理学の研究においても実証的に示されている。
- 一方で、デジタルメディアが急速に普及し、子どもを取り巻くメディア環境が変化しているという実態がある。絵本や本との関わり方や絵本・本に対する価値観の変容についても具体的に把握した上で、絵本・本の普遍的な価値とともに新しい時代に対応する新たな価値についても探究・創造する必要がある。
- そのために、子どもにとっての絵本・本について、実証的に検討すべき問いとして以下の点が挙げられる。

- 絵本・本には、子ども自身や親子のかかわりにとって、どのような固有の意味や価値があるか？
- 家庭や園における絵本・本の量や環境の質には、どのような多様性や格差があるか？それは、子どもの発達に影響するか？
- 絵本・本に関する環境づくりに関して参考になる園や自治体の先進事例が国内外にあるか？

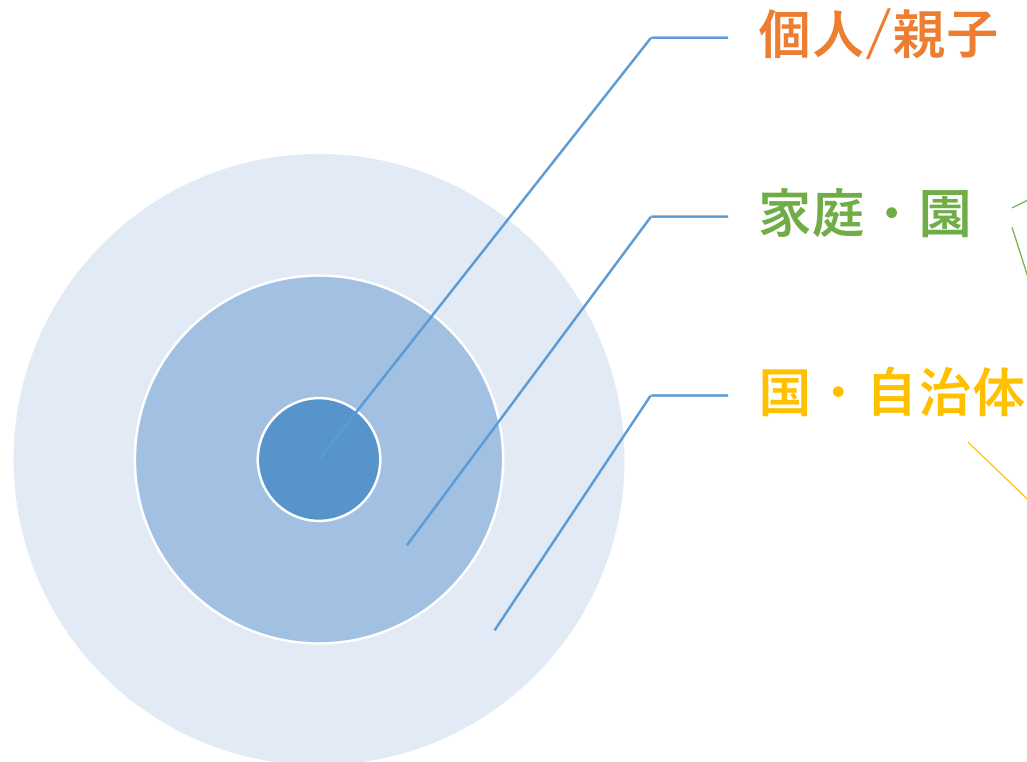
本研究の目的と内容

- デジタルメディアが急速に普及し、子どもを取り巻くメディア環境が変化する中で、絵本・本の価値について改めて探究するとともに、より豊かな絵本・本環境の創造に資する知見を得るため、子どもの絵本・本環境を多層的・多面的に研究することを目的とする。
- 具体的には、以下の研究を実施する。
 - ① 子どもの発達や親子の相互作用における絵本・本の固有性（例えば、デジタルメディアと比較した時の固有性）に関する実験研究
 - ② 日本の家庭や園の絵本・本環境の実態、絵本・本に対する親や保育者の意識に関する調査研究
 - ③ 子どもを取り巻く絵本・本環境の改善に資する、国や自治体の取り組みに関する国内外の事例研究

子どもを取り巻く絵本・本環境を多層的・多面的に研究し、 絵本・本の新たな価値の発見と生成、環境改善を目指す

中核的な問い

- ① 絵本・本には、子ども自身や親子のかかわりにとって、どのような固有の意味や価値があるか？
- ② 家庭や園における絵本・本の量や環境の質には、どのような多様性や格差があるか？それは、子どもの発達に影響するか？
- ③ 絵本・本に関する環境づくりに関して参考になる園や自治体の先進事例が国内外にあるか？



①実験研究

- 絵本・本と動画等他のメディアに対する子どもの反応の違い
- ※行動、視線、脳波等

②調査研究（家庭・園）

- 絵本・本の量・種類
- 絵本・本の環境の質（置き方、提示方法）
- 絵本・本の入手方法、予算配分
- 読み方等の発達的变化
- 他のメディア環境

③事例研究

- 絵本・本の環境づくりに関する園・自治体の先進事例
- 絵本・本環境づくりに関する海外の先進事例

本研究の意義

学術的意義

- 発達における絵本・本の固有性・重要性、絵本・本環境の実態に関わる乳幼児期から児童期に関するデータは貴重

実践的意義

- 絵本専門士、保育者、子育て支援の専門家等の絵本・本に関する専門知向上に寄与する可能性

社会的意義

- 絵本・本環境に対する社会的関心を高め、絵本・本環境の改善に寄与する可能性

